

〈連載〉
あなたもできます
「留学自分流」

第2回
留学先の選び方・
留学の目的を考える

小川翔平(広報青年部会)



シンガポールのシンボル、おなじみマーライオン。

今回は「留学先の選び方・留学の目的を考える」というテーマについてお話しします。

留学先として多くの人が挙げるのが「アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・ニュージーランド」といった英語圏の国々だと思います。しかし、留学先として考えるべきなのは主要英語圏の国だけではありません。まず私はそれを強調したいと思います。

中国語の勉強にシンガポール留学

サッカーが好きだからブラジルに行きたいという人もいれば、韓国ドラマが好きだから韓国に行くという人もいます。意外なところでいうと、英語の勉強をしにマレーシアやフィリピンなど、東南アジアの国に行く人もいれば、日本語教師になる勉強をしにイギリス、オーストラリアへ行く人もいます。あとはデザインの勉強をしにデンマークに行くとか、書道を学びに中国へ行く人もいます。私も中国語を勉強するためにシンガポールへ留学しました。シンガポールでは英語も中国語も共通語として使われているので、2つ以上の言葉を勉強することができます。

とにかく、自分の体が1つしかない以上、一度に行ける国は1つです。どこに行きたいかしっかり考えましょう。半年はメキシ

コで半年はアメリカというような選択肢もあると思うし、実際にそのような形で留学する人もいます。

「留学＝成長」ではない

自分がなんのために留学をするのか、その目的、最終目標をしっかりと考えましょう。ただ単に「英語が勉強したいから」という理由で留学しても何も身に付きません。外国の空気を吸ったからといって自分が自動的に変わるわけではないのです。誰でも努力の結果として語学力が向上したり、新しい価値観を手に入れ、パワーアップして帰ってくるのであって、「留学イコール成長」ということはありえません。言葉の勉強などは日本でもできます。なぜ多額の投資をし、現地に行って勉強するのか、その意味をよく考えることが大切だと私は思います。



水飲み場の表示は多言語表示。シンガポールの空港で。